



紹介するのは、半世紀近くも前の1974年(筆者MOMO25歳)の10月20日、山の会の仲間と清津峡歩道を完歩した時の写真集です。

当時は、上越線の石打駅から清津川流域にでるのに、偏在の国道353号線の十二峠トンネルは存在せず、標高727mの十二峠を越える車道は無かったため、山道を歩いて越すしかありませんでした。

現在、清津峡には観光用の清津峡トンネルが造られていますが、それも1974年当時は無かった代わりに、トンネル付近は川沿いにコンクリート舗装された遊歩道がありました。1988年にこの遊歩道で落石による死亡事故が発生したことから、清津峡温泉と足尾沢川出合の間が通行禁止になってしまいました。景観を味わうための代替え案としての清津峡トンネル工事が行われ、公開されたのは1996年でした。



※ 清津峡歩道は、1988年に発生した落石死亡事故により通行が禁止され、その後1996年に全長750mの清津峡トンネルが開業しているが、このトンネルと足尾沢川出合の間は廃道になっている。
また小出と清津川間の国道353号線の十二峠トンネルは1981年開通のため、1974年当時は峠越えの車道はなかった。

上野駅 0:18 ■ 石打駅 4:30 5:30 — 十二峠 6:45 7:45 — 葎沢集落 8:55 — 清津峡温泉 9:20
— 足尾沢 12:15 12:50 — 高石沢 13:45 — 鹿飛橋 14:15 — 八木沢 15:50 ■
越後湯沢駅 17:15 佐渡57号 赤羽駅

天気を心配しながらの出発だった。
石打駅からの十二峠へ登る途中は雨、でも峠で休憩するうちに雨は上がった。残念ながら峠からの巻機山や越後三山などの眺めは得られなかった。
清津峡は紅葉の最盛期には若干早すぎたが、色付きつつある微妙な色彩は美しかった。陽に照らされての輝きがなかったのは惜しまれるが…
十二峠を越えた後の、清津峡温泉から八木沢までの6時間半の歩行は、中盤以降の高巻き道のアップダウンがきつく、かなり疲労を感じた。



十二峠の下りの山道を抜け、
倉下の集落へと農道を下る

清津川の対岸の景色が見えてきた

右側斜面を削っての道路は県道高田
松之山六日町線(現在は国道383号線)



小出の集落から清津峡温泉に向かう道に行く

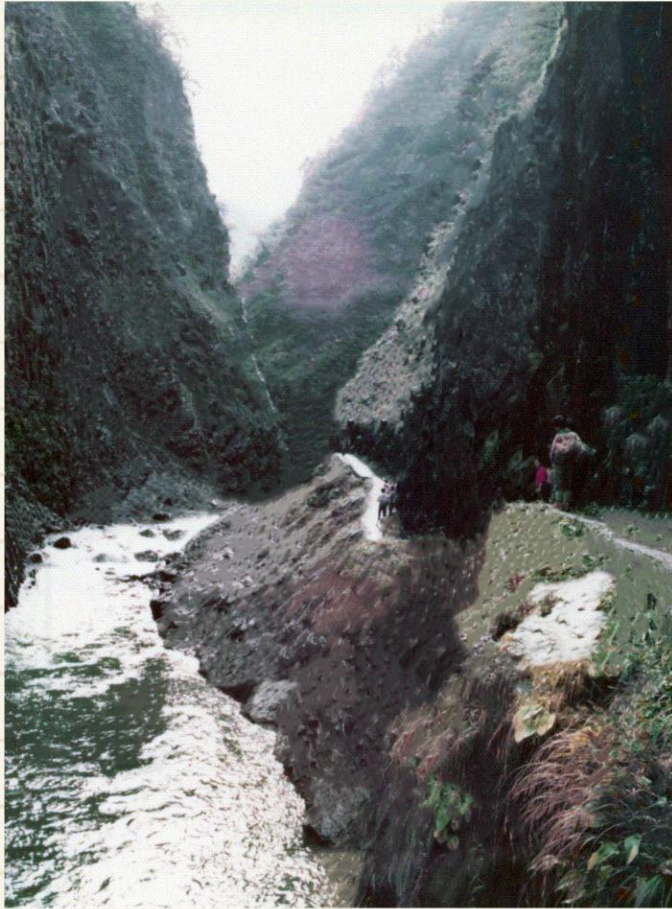


清津峡の案内板

清津峡温泉を過ぎると、直ぐに溪谷に入る

コンクリート舗装の遊歩道が整備されている





清津川沿いの急崖を削って
作られた遊歩道を上流に向かう



さらに進むと兩岸とも
岩壁が高まり圧倒される

写真は下流方向



下流を見る

垂直の柱状節理の岩壁が
目を引く

薄日が射して来た
下流方向



歩道は川床から徐々に離れ
上り下りし始める



上流を見る

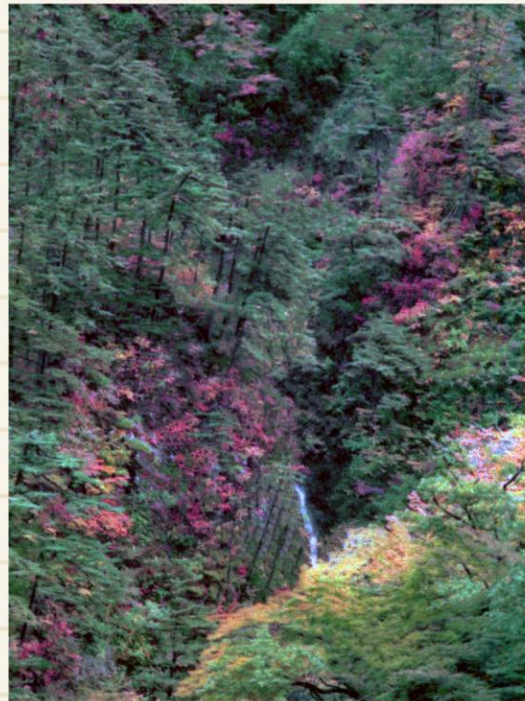
足尾沢川出合を過ぎると、急坂を
登り、高巻き道となる
舗装も消え、遊歩道の面影は
無くなる



岩壁と紅葉の尾根を見上げる



紅葉を望遠レンズで



支沢に掛る滝



清津川の川底からは、地理院地図では
80mほどの高度差

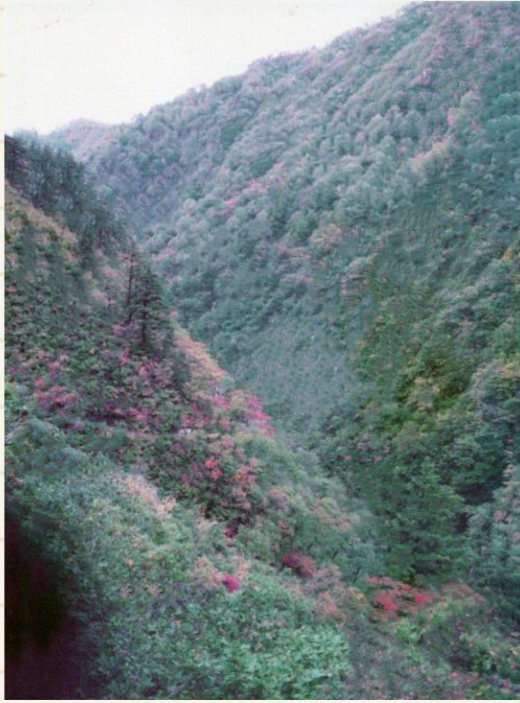
足尾沢川の谷か？



頭上の圧倒的岩壁

清津峡下流を振り返る





紅葉が綺麗な山肌

下流側



上流側

この先沢筋がくねり
川底は見えない



参加者一同

海野 菊間 伊東 糸川 村瀬
百瀬



流れの無い沢だが
流木が横たわっている



黒岩付近に行く



樹林が無い斜面では
歩いて来た歩道が分かる

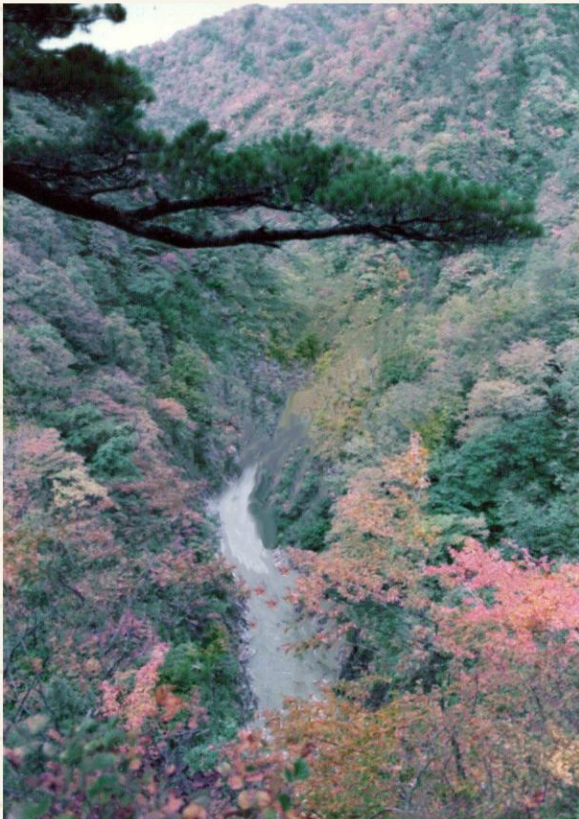
下流側



紅葉の山肌と岩稜



深紅のイロハモミジの紅葉が目を引く



時折、谷底が見える場所がある

下流側

清津川対岸の高津倉山の山頂付近は、
完全に紅葉している



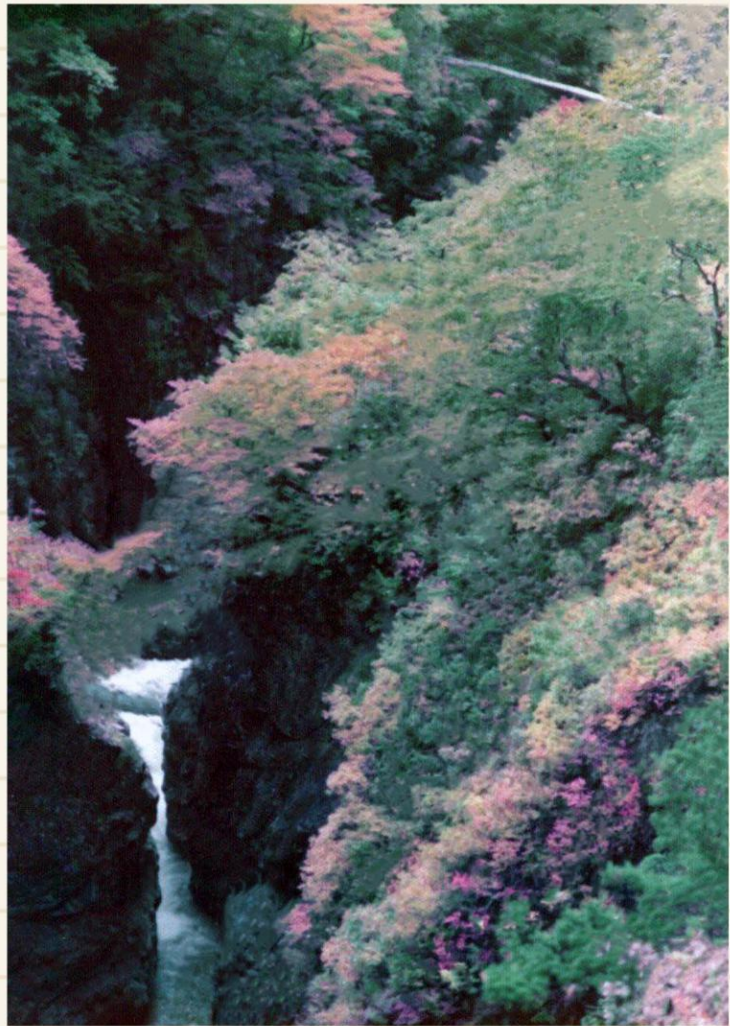
清津川の流は深い瀬に
なっている箇所も見られる

谷合に見える峰は黒岩付近
大分遠ざかった





紅葉の綺麗な道を
鹿飛橋へ向かう



右上に鹿飛橋が見えた

橋下流はゴルジュが形成されている
水量からして深さは相当なものだろう



対岸に移る鹿飛橋に向かい
高度を下げる



吊橋の鹿飛橋を渡る
長くはないが谷底までの高度差が怖い

カップルが写真撮影中？